

第九回栄区歴史双六探訪 副題 栄地域史蹟探究

平成 17 年 10 月 17 日(月)9:50 ————集合 雨天 10 月 24 日(月)に順延

出発時間10:00 10:10 10:25 10:35 10:55 11:05 11:20 11:35
南谷バス停—大草鞋—八幡社—正安寺(11)—貝殻坂—長光寺—薬師堂—涼戸
11:45 11:55 12:10 13:30
六地藏—観音堂—國慶堂—飯島市民の森〔(11) 白旗神社(昼食)]—般若院
13:50 14:20 14:50 15:10 15:20
三島神社—滝が久保石塔群—蛇塚山—飯島堰跡—笠間町公園解散

ひとくちメモ

①〇大わらじ(横浜市有形民族文化財) 南谷バス停脇東側

大正初期に農事研究や勉学に集まり、救心会と名付けて活動していた青年数人が、当時ここに生えていた松の大木に長さ約5m程の大草鞋を吊るし道祖神に奉納したのが始まりです。前を走る列車からも見えて大変有名になりました。現在のわらじは全長3.5m、幅1.5m、重量約200kg、で3年毎に作り替えている。

②〇八幡社 長沼町784

創建 創建慶長十年(1605)と伝う。

祭神 祭神第15代応神天皇 長沼の鎮守。

③〇臨済宗長沼山正安寺 長沼町667

山号寺号 臨済宗長沼山正安寺。

本尊 木造阿弥陀如来(親鸞が自ら刻んだと云われて、像の袖に親鸞の別名善信の銘がある。)4月10日ご開帳。

由来 創建の年代不詳、古くは龍満寺という天台宗の寺院であった、親鸞上人が布教のため当地を訪れ当寺に宿をとった、時の住職が親鸞に帰依し貞永元年(1232)浄土真宗に改宗したが、後に北条の弾圧を受け円覚寺の末寺となり臨済宗長沼山正安寺と改宗し難を逃れ、現在に至った。

④(23)貝殻坂 飯島町と長沼町の境

坂の名前 飯島町と長沼町を南北に縦断する「吉田・大船停車場線」の道路は鎌倉時代に「中の道」として整備され以来、何度か改修開削が行われたと思われるその都度地表に貝化石が大量に現れこの坂の名となった。

地層考察 この地層は、第四期の洪積層前期と言われ約100万年前頃の地層で

長沼層といわれ、長沼付近を中心に田谷から飯島・小菅ヶ谷・日野へと細長く伸びている。

⑤○光長寺 飯島町779

山号 寺号 浄土宗泉水山養儀院光長寺 本尊 木造阿弥陀如来立像来迎相
由来 天正年間(1573~91)の創建と伝う、当所泉水山香梅院明光長寺と号した。江戸時代の初め領主黒田直相が姉の養儀院の位牌を安置して弔い、地続きの土地を寄進したため、院号が養儀院と改められた。

⑥^{トノヤト}殿谷の薬師堂 飯島町502

由来 薬師如来は奈良時代に行基が作ったと、又鎌倉時代には丹後の局(頼朝の室)の念持仏だったと伝承されている。昔は三島神社の側にあったが現在地に移り東方山円勝寺と号し、現在は円覚寺塔頭雲頂庵持。

祭事 開帳は60年に1度、次のご開帳は2020年です。

1月12日 初薬師。

7月7日 境内に祀られる、大日如来(土地の人は天王様という)のお祭り。

⑦^{スズミドロ}○涼戸の六地藏 飯島町174

由来 造年不詳 以前よりこの地に六地藏・庚申塔・二十三夜塔あり、道路や周辺開発などで再三移動しが、現在は、ほぼ元の位置に安置されている。

⑧○下坂観音堂 飯島町1618

山号 寺号 下坂山勝福寺(鎌倉郡三十三ヶ所観音霊場第三十一番札所)

本尊 木造正観音菩薩座像。

由来 創建年不詳 本尊は江戸時代のもの。現在お堂は貸家として運用しており祭事やお念仏の催し以外では中でお参りは出来ない。円覚寺雲頂庵持。

祭事 ご開帳は12年に1度開きます(平成14年に開帳された)、このとき観音の慈悲が与えられますようにとお札が配られます。但し、12年は長すぎるとして6年毎にご開帳(午年)と中開帳(子年)と交互に行われるようになった。お念仏は春秋2回行われる。

⑨○國魔堂(別名地藏堂) 飯島町1656

安置仏 木造地藏菩薩立像 國魔王を初めとする木造十王座像

奪衣婆座像・鬼卒座像・童子像・俱生神立像各木造。

由来 延宝3年僧最岸によって開かれたと伝う、明治の初めには内山純昭という僧が子供に読み書きを教えていたそうです。現在は円覚寺雲頂庵持。

祭事 縁日は、4月8日と8月16日。

⑩(24)飯島市民の森 飯島町2441

発足 昭和47年4月市内17ヶ所の市民の森第一号に指定された。

特徴 白旗神社の石祠がある。塚または古墳として2ヶ所が報告されている。
(横浜市文化財地図に記載あり)

⑪○白旗神社 市民の森飯島町1467

由来 不詳だが、社名から見て源氏に縁の神社ではないかと云われている。

祭事 7月20日今年収穫した小麦粉でソバ(土地の人は饅頭のこともソバということがある)を打ってお供える。

⑫○真言宗飯島山般若院 飯島町2153

山号寺号 真言宗飯島山般若院宝篋寺

本尊 木造不動明王立像

寺宝 五鈷鈴

由来 元亨元年(1321)裕戒上人(金沢文庫創設の金沢顕時の子)が開いたといわれている。

⑬○三島神社 飯島町2780

創建 元和元年(1615)勧請と風土記にあり。飯島町の鎮守。

祭神 大山祇命天照大神 大国主命。

祭事 9月第一日曜日。(境内の清掃は老人会が行っている)

⑭○滝が久保の石塔群 飯島町1893

由来 塞の神と庚申塔は、もとは飯島町1931番地の辻(ハーフット飯島付近)にあったが、団地開発と道路改修によりここに移った。

堰神様も、もとは飯島堰(いたち川公園辺り)のたもとにあったが、河川改修でここに移された。

⑮○蛇塚山 (関山) 富士見台団地1879

いわれ 別紙参照。この地が未だ山林であったときには、山頂の椎の木の根本に「蛇塚」といわれる祠があった、団地造成の時行方不明になった。

⑯○飯島堰跡 (いたち川公園)

滝が久保にあった堰神様にまつわる飯島堰跡は、いたち川公園の辺りにあった。

⑰○笠間町公園解散ー⑱○十字路バス停。

以 上

(1) 蛇塚の話

蛇塚 (へびづか・じゃづか)

昔々、鎌倉から戸塚への道の途中、笠間から新橋を渡って、左手にある山の奥に、大きな沼がありました。そこには、大きな大きな蛇が住んでいるといわれていました。

この道を通る旅人は、美しい女の人に誘われて、このさびしい山の中へと迷い込んでしまうのでした。この美しい女性は突然にその姿を大蛇に変え、旅人を一口で飲み込んでしまいます。美しい女性に誘われ、山奥に踏み込んだ旅人は2度とかえってくることはありませんでした。いつかしら村人たちはこの沼付近を、「帰らずの沼」「嫁さん婿さん帰らず」というようになりました。人々から恐れられていたこの大蛇に、勇敢にも立ち向かった人がいました。飯島村に住んでいた、飯島八右衛門その人です。八右衛門は、美しい女性の誘いに自分からついて行き、

縁を欠いたお釜をかぶり、刀を持って、変身した大蛇に飲み込まれたのです。頭にかぶった釜の縁を欠いたのは、蛇に飲まれても、蛇のおなかの中を通れるためでした。おなかの中に入ると、八右衛門は用意していた刀を抜き、おなかを内から切り開いて、外へ出ました。さすがの大蛇も、息絶えてしまいました。八右衛門は、持っていた刀で、大蛇の目玉を取り出すと、それをもって、意気揚々と村へ引き上げていったということです。



